

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 04-039190

(43)Date of publication of application : 10.02.1992

(51)Int.Cl.

B63B 21/29

(21)Application number : 02-147575

(71)Applicant : HORI SHUJI

(22)Date of filing : 06.06.1990

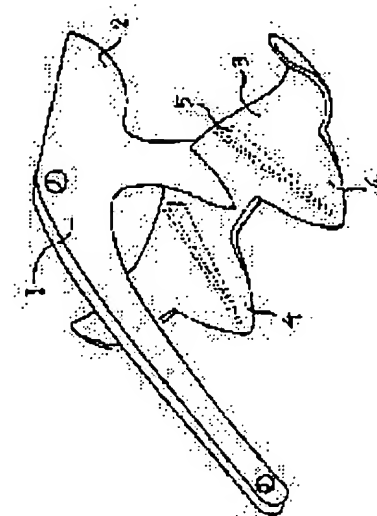
(72)Inventor : HORI SHUJI

(54) ECCENTRIC AXIS WEIGHT TYPE SINGLE-CLAW ANCHOR

(57)Abstract:

PURPOSE: To attain a simple structure, the easy handling property and the anchoring speed not affected by bottom quality and prevent the rotation of an anchor when it is slid by providing an anchor handle, an eccentric axis weight functioning as a rotary axis at its tip, a blade and anchor claws.

CONSTITUTION: When the cable of a tumbled anchor is stretched and an anchor handle 1 is lifted after anchoring, rotating moment is generated centering on the tip contact section of an eccentric axis weight 5 by the tare weight of a blade 3, the anchor is set to the correct position, and claws 4 start biting. The eccentric axis weight 2 concurrently functions to suppress the floating of the blade 3 at the time of biting. The blade 3 drawing arcs toward both ends from outsides of slant members 5 facilitates axial rotation, keeps the biting anchor in the ground at a stable hooking attitude and secures the holding force. The rotation (inversion) of the anchor in the sliding state observed for a rod-less anchor is suppressed by the action of the back face of the blade 3 and the slant members 5, and this anchor follows a quick direction change of the cable without being tumbled.



Best Available Copy

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application]

⑤ Int. Cl.⁵
B 63 B 21/29

識別記号

庁内整理番号
8013-3D

④ 公開 平成4年(1992)2月10日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全2頁)

⑥ 発明の名称 偏心軸重錘式片爪錨

⑦ 特 願 平2-147575

⑧ 出 願 平2(1990)6月6日

⑨ 発 明 者 堀 修 爾 福岡県田川郡川崎町大字川崎617-18

⑩ 出 願 人 堀 修 爾 福岡県田川郡川崎町大字川崎617-18

明 細 書

1. 発明の名称 偏心軸重錘式片爪錨

2. 特許請求の範囲

旋回軸として機能する屈折型錨柄(1)先端の偏心軸重錘(2)、ブレード(blade)(3)、錨爪(4)で構成された偏心軸重錘式片爪錨。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

主として、ヨットを含む小型船舶、舟艇を対象とした小型錨に関するものである。

(従来の技術)

錨に関しては用途、海(水)域の条件、船舶の大小及び形状などの諸要素をふまえ従来より数多く開発されているが、それぞれ一長一短があり、あらゆる利用に適した万能な錨は未だ開発されていない。

特に小型錨の分野では大型錨の小型化の例も多く、質量の違いは効果の面で問題があり、また把駐力で回る有錘錨は操作性、収納設備

及び場所との関連で利用範囲、頻度は限られ昨今のマリンスポーツ、レジャー大衆化のなかで、それら小型船舶舟艇類には従来に比べ殆ど利用されていないのが現状である。

(発明が解決しようとする課題)

上記に鑑み、従来の有錘錨、大型錨の小型化したものとは異なる小型船舶舟艇類専用の錨として単純な機構と耐久力、取扱い容易で場所をとらず、底質に左右されず且つ錨掻きが速くて底質に応じた応分の把駐力を示し、走錨時に錨の回転が起きず、併せて不使用時にはそれら舟艇のアクセサリーとしてデザイン的にもすぐれた錨を開発しようとするものである。

(課題を解決するための手段)

1. 屈折型錨柄(1)の短い部分はブレード(3)及び錨爪(4)を支える支柱の役割を果たす。
2. 屈折型錨柄の長柄の延長上に錨柄屈折部から適切な屈折角をもたせて旋回軸となる偏心軸重錘(2)を錨柄と一体構成で設ける。

3. 錨柄支柱は錨爪と一体構成のブレード(3)につながる。

4. ブレードは、その中央部で錨柄支柱を介し錨柄と直角に接続され、荷重による錨のねじれ防止対策として錨柄の屈曲部内側を討板状仕様として補強する。

5. ブレードの左右対称位置に錨爪を設ける。

6. 底面ブレード中央よりの左右各点から錨爪先端にかけ末広がり基部を高く先は平らにつながる斜走材(5)を設け補強を兼ねて横転防止の機能をもたせる。

(作用)

1. 投錨後錨が横転状態にあっても索が緊張し錨柄が持ち上げられるとブレードの自重で偏心軸重錨先端接触部を中心に旋回モーメントが派生して錨が正置姿勢となり爪が掘込み始める。また偏心軸重錨は掘込み時ブレードの浮き上がりを抑える機能を併せ持つ。

2. 斜走材外側付近から各両端にかけ弧を描くブレードは軸旋回を容易にすると同時に地中

にあって掘込んだ錨を安定した堅止姿勢に保ち把駐力を確保する。無碍錨にみられる走錨状態での錨の回転(反転)もブレードと底面の斜走材の作用で抑えられ、また張索の急激な方向変化にも転倒することなく追従する。

(実施例)

1. 吊り下げて着床後錨索を伸ばすか投錨直後錨索の遊びを除くことにより風潮で索の緊張を待つまでもなくより早く正置姿勢で爪が掘き込む。

2. ブレード中央に錨爪を設ける方法もある。この場合、爪は中割れ菱形とする(第3図)。横滑り、横転防止の面で有効である。ただし旋回モーメント、スタビリティなど総合的にみて一つ爪より二つ爪のほうが有利である。

(発明の効果)

(1) 従来の片爪錨は一般に投錨直後横転の姿勢から掘込み落着くまでに比較的時間を要するが本発明では偏心軸重錨の作用で錨索が張ると瞬時に錨柄が索と一線且つ正常な錨掘き

姿勢となり掘込みに時間をくわず外部応力の変化に対してもブレードと底面の斜走材の作用で安定した姿勢を維持することができる。

(2) 錨爪を左右対称に設けることで砂泥、岩礁を問わずあらゆる底質に対応して安定した把駐力が確保できる。

(3) この種の錨は船首部に置かれる事が多いがデザインのにも違和感が無く機能と共にアクセサリ効果も併せ持つ実用的な錨である。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の斜視図。

第2図は本発明のブレード、錨爪の底面図。中心線の左側は右側と対称にあらわれるので省略。

第3図は本発明の実施例2.の中割れ菱形錨爪、ブレードの平面図。

(1) 屈折型錨柄 (2) 偏心軸重錨

(3) ブレード(4) 錨爪 (5) 底面の斜走材

